

# 平成28年度当初予算案の概要

平成28年2月  
宮城県

## I 予算編成の基本的考え方

- 平成28年度は「震災復興計画」の再生期の3年目となり、応急仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされている多くの方々にも復旧・復興を実感してもらえる成果を具体的な姿として現すことが必要
- このことから、復旧・復興をより一層加速化させるため、従来課題に加えて新たな課題にも全庁一丸となって取り組むことが求められる状況
- このような状況の下、平成28年度の当初予算では、国の財政支援のみならず県の独自財源も積極的に活用し、引き続き被災者の生活再建や地域経済の再生など復旧・復興に最優先で取り組むとともに、地方創生を始めとした県政課題を解決するための施策を積極的・重点的に予算化
- あわせて、財政の健全性の堅持と迅速かつ創造的な復興に向けた予算の重点的配分を主眼に策定した、「みやぎ財政運営戦略」に基づく歳入歳出両面にわたる対策を計画的に実施
- 具体的には、
  - ・震災対応分は、4,833億円（一般会計）を計上し、「震災復興計画」に掲げる主要政策の推進に必要な額を確保
  - ・通常分は、引き続き徹底した見直しを行った上で、必要性や優先度が高いと認められる施策、復旧・復興の効果を補完または増進する施策に重点化し、8,911億円（一般会計）を計上
  - ・歳入は、好調な企業業績を反映し県税収入の増加を見込む一方、臨時財政対策債を含めた実質的な普通交付税は減少。なお、臨時財政対策債は441億円と前年度より減少したものの、依然として後年度の財政負担が懸念される状態
  - ・歳出は、一般会計の投資的経費において災害復旧事業が増加した一方、復興関連の公共事業が減少したことから、4,499億円で今年度を下回ったが、震災前に編成した平成23年度当初予算の4.5倍であり、過去4番目の規模
  - ・財源不足対策としては、財政調整基金繰入金を138億円計上
- この結果、平成28年度一般会計当初予算は1兆3,744億円（前年度比▲516億円、▲3.6%）と、当初予算としては平成24年度を最高に年々減少し、過去5番目の規模。平成22年度以降の震災対応予算の累計は5兆3,522億円（総会計）